

**製品名: Upa ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe87816**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000, ICC/IF 1:50-1:100
分子量	Calculated MW:49 kDa; Observed MW:49 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	Upa
別名	ATF; QPD; UPA; URK; u-PA; BDPLT5
遺伝子 ID	5328
SwissProt ID	P00749
免疫原	ヒトウパの合成ペプチド

**背景**

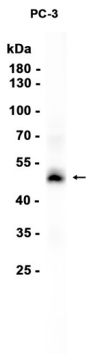
この遺伝子は、プラスミノーゲンをプラスミンに変換する分泌型セリンプロテアーゼをコードしています。コードされているプレブ

ロタンパク質は、タンパク質分解によってA鎖とB鎖のポリペプチド鎖を生成します。これらの鎖は、単一のジスルフィド結合を介して会合し、触媒的に不活性な高分子量ウロキナーゼ型プラスミノゲンアクチベーター (HMW-uPA) を形成します。HMW-uPAはさらに、触媒的に活性な低分子量ウロキナーゼ型プラスミノゲンアクチベーター (LMW-uPA) へと処理されます。この低分子量型は、ウロキナーゼ型プラスミノゲンアクチベーター受容体に結合しません。この遺伝子の変異は、ケベック血小板疾患および晩発性アルツハイマー病と関連している可能性があります。選択的スプライシングによって複数の転写バリエーションが生じ、そのうち少なくとも1つはタンパク質分解によって処理されるアイソフォームをコードしています。[RefSeq 提供、2016年1月]

## 研究分野

-

## 画像データ



Upa ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して PC-3 細胞抽出物のウェスタンブロット分析を行いました。